



価値ある0点

以前、ある先生からこんな話を聞いたことがありました。

興味がある授業もあれば、「ああ、またこの授業か…。」と始まる前から憂うつになる授業もありました。好きなことには何時間もぶっ続けでできるのに、そうでないことには「やらなくてはいけない」とわかっていながらも、ついそっぽを向いてしまう性格の私は成績にもずいぶんでこぼがありました。

高1の時ですが、化学の授業でこんなことがありました。水素を作る実験でしたが、実験が終わって先生が話を進めているのに、私は机のかげでこっそり水素の『増産』に一人励んでいたのです。しばらくすると「はい、紙を配って」という先生の声。なんと、その日に限って授業の最後に抜き打ちテストがあったのです。先生の話に全然聞かずに、実験をこっそり夢中で続けていた私は、当然のことながら0点をとってしまいました。先生にも答案を返却されるときに、「君はいったい授業中何を聞いていたんだ!」とこっぴどくしかられてしまいました。

母一人、子一人で育った私は、今までどんな成績のテストでも必ず母に見せていました。「見せなさい」と言われていたわけではありませんが、見せるのは当たり前と思っていましたし、母もたとえ成績が悪くても、それを責めるということがなかったので、見せやすかったです。そしていつもの通り帰宅して、母にその0点のテストを見せました。母はその答案を見て数秒沈黙していました。私は何を言われるかと母の言葉を待っていました。

すると母は『あんたが一生懸命やって、それでもとってしまった0点やったら、立派な値打ちのある0点や。だけど手抜きして、なまけてとってしまった0点やったら、人間としてこない恥ずかしい0点はないよ』とぼつり言っただけでした。成果が出ない結果を前にして、今でも私は母のその一言を思い出しては、元気とやる気を取り戻しています。

35年間、私が中学校で数学を教えてきた間に、0点を取ってしまった生徒が何人もいました。その答案を返すたびに、私は自分がかつて取った0点と、その時に言われた母の言葉を思い出して、その話をするすることがありました。

これが、私がある先生からうかがった話です。

人間の一生の間には、頑張ったのに期待した結果が得られないことはたくさんあります。勉強はもちろんですが、部活動も、人間関係だってそう。むしろ期待通りの結果が得られることのほうがよっぽど少ないのです。

でも、いいじゃないですか。がんばり続けていさえすれば、いつか実感できる成果となって芽を出してくるはずです。失敗は挫折ではありません。努力をおこたり、「どうせやってもダメなんだ」とあきらめることが挫折なのです。「どうせやってもムダだよ」と人から言われたら不愉快になるくせに、自分の可能性を自らの手で閉ざさないでください。

来週火曜から期末テストを迎えます。中間テストの反省を生かして、今の自分にできる精一杯の力で、自身の可能性に挑戦してください。

□ 来週の予定

| 月/ 日(曜) | 行事予定 | 備考 |
|---------|------------------|------|
| 6/30(月) | 全校朝礼 めえめえ学習教室 | |
| 7/ 1(火) | 期末テスト(数・社・保体) | 給食なし |
| 7/ 2(水) | 期末テスト(理・音・技家) | 給食なし |
| 7/ 3(木) | 期末テスト(国・英)④道徳 | |
| 7/ 4(金) | Ⅱ期時間割始 各種委員会 | |